技術戦略委員会（第1回）
資料1－9より

新たな情報通信技術戦略に関する論点の例について

資料WG1－6

1　ICTを取り巻く環境変化

- 次の5年間（2016～2020年度）、さらに長期的（例えば2030年度まで）には、ICTを取り巻く環境変化はどのようになるのか。
- 今後の我が国における社会経済活動の変化、国際関係における位置づけの変化等により、ICTに対するどのような社会ニーズが生まれるのか。
- また、ICTがどのように高度化し、どのように社会に使われるようになるのか。　等

2　研究開発、国際標準化、成果展開等の推進方策

- 1の環境変化を踏まえ、次の5年間においては、国やNICTは研究開発、国際標準化、成果展開にどのように取り組んでいくべきか。国やNICTがこれらの活動において果たすべき役割は何か。国際標準化や成果展開において、研究成果に関する知財戦略をどのように考えていくか。
  - 技術の自前主義から、外部の技術を活用したオープンイノベーションへと移行していくために、どのように取り組んでいくか。
  - （多言語音声翻訳のように）実用化や社会実装までの取組が重要になってきているが、どのように取り組んでいくか。
  - これまでは基礎研究、応用研究、その上でテストベッドによる研究成果の実証を行うようなリニア型が多かったが、次の5年間の次世代テストベットはどのようなものが必要なのか。　等

新たな情報通信技術戦略に関する論点の例について

３　産学官連携、国際連携、人材育成等の推進方策

- 次の５年間に国やNICTは産学官連携、国際連携、人材育成等のその他の研究開発に関連した活動にどのように取り組んでいくべきか。国やNICTがこれらの活動において果たすべき役割は何か。
  - ベンチャーや中小企業をはじめ民間企業や大学とどのように連携はしていくか。
  - 諸外国とは研究開発や国際標準化等においてどのように協力していくか。また、我が国の技術、機器等の展開先として開発途上国が一層重要となるが、先端技術の取扱い等にどのように対応しながら、協力を進めていくのか。
  - 日本の博士取得者数が減少傾向にある中で、若手研究者の育成や女性研究者、さらには外国人研究者の活用など、どのように対応していくのか。　等

４　重点研究開発分野・課題

（→先ず、WGにおいて集中的に議論する予定）

- 次の５年間に国やNICTとして重点的に研究開発を行う分野・課題は何か。
- 我が国が国際的な競争力を発揮できる分野・課題は何か。
- 我が国として国産技術を維持しなければならない分野・課題は何か。　等